

## 3月のすぺいろ

### <神代植物公園&深大寺に行こう！>

3月20日（月）、三連休の最終日に、調布市の神代植物公園と深大寺へお出かけしてきました。JR三鷹駅に、朝の10:30に集合！当日はお天気に恵まれ、お出かけ日和となりました。

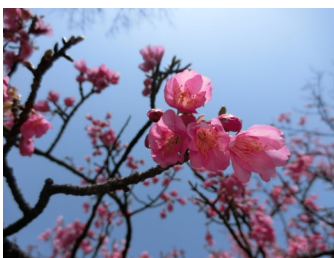
到着し、すぐお隣の深大寺でお蕎麦を食べようとしたのですが、あいにく開店は11:30から…。そこで、ひとまず植物公園の方から回ることにしました。

植物園に入ると、園内の売店で「桜もちソフト」（何と白玉入り！）なる、季節感たっぷりのおやつが。お蕎麦の前に腹ごしらえということで、小腹がすいた人は桜もちソフトを食し、いざ園内を散策。3月も末ということで、梅にかわり、桃や寒桜（東海桜という品種だそうです）が咲き、菜の花が群生しているところも…。白、ピンク、黄色…と春らしい色の花に囲まれてきました。

一通り園内を散策した後は、植物園を出てすぐのお蕎麦屋さんへ。晴天ということで、この日は屋外席で、春の日差しを浴びながら、お食事(^\_^)

お腹も落ち着いたところで、深大寺さんへお参り。深大寺の門前には、「鬼太郎茶屋」というゲゲゲの鬼太郎をモチーフにした。妖怪グッズ&お茶屋さんが。鬼太郎キャラクターと写真を取る人、彼女へのプレゼントになるものは無いかな…とグッズを眺める人、みんなそれぞれに鬼太郎茶屋を満喫していました。（調布市はゲゲゲの鬼太郎の原作者、水木しげる先生が住んでおられた町で、水木ファンの聖地と呼ばれているとか。）

実はこの日、すぺいろがコラボしている国分寺「でみカフェ」さんでは、すぺいろメンバー presents のイベントが二つも行われていました！腹も満たされ、少し早い春を満喫した一行は、調布から国分寺へ移動♪でみカフェでのイベントに参加するのでした…。（はるか）



## すぺいろNEWS

### □ 3月のNewプログラム

【偏愛mapをつくってみよう】 【リカバリーカレッジたちかわ入門】 【リカバリーストーリー入門（前編・後編）】  
【SSTってなに？】 【SST（社会生活技能訓練）が始まりました！】

### □ スタッフが異動になります

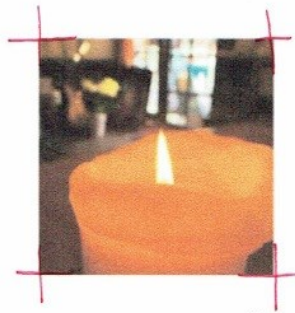
いろどり前編集長にして、給食のお姉さんの朝生賀子さんが、地域活動支援センター<マーキー>に異動になりました。

# Sperogram

すぺいろうぐらむ

～すぺいろうの日々を写真におさめました～

@sperogram  
 神代植物公園  
 行って来たヨ



@sperogram  
 でみかフェのキャンドル\*



@Sperogram  
 鬼太郎茶屋には妖怪がたかたん!!



@Sperogram  
 タニーさんの個展byでみかフェ



@Sperogram  
 深大寺でお参り

## 大谷祐人さん個展 「～もうじきはるかも～」

いろどり第1号より1頁上に住み続ける、「いろどりくん」。その生みの親、タニーさんこと、大谷祐人さんの個展「～もうじきはるかも～」が、国分寺でみカフェさんで開催されました。今回は、個展に行かれたお三方に、個展の感想を伺いました。（話し手：リンディー、でいすけ、めぐ 聞き手：はるか）

Q. 行ってみて、いかがでしたか

リ：僕は2回行ってらんだけど、2回目に行ったら、何枚も売れていました。行くと、タニーさんが丁寧にお客さんと話をされていて、つくづく「タニーさん、すごいなあ」と。

で：優しい絵で、「ああ、いいなあ」と。大谷さんの人柄が出ていますよね。

め：私は5回行ったよ！最終日に大谷さんが紙芝居（つきのゆりかご）を読んでもらったんだけど、とても良かった。優しい作品で、タニーさんが子守唄歌っているみたいだった。

Q. お気に入りの作品は？

リ：「さくら」夕空と、花びらの色のグラデーションが好きなんです。

で：私は、フライヤーの絵にもなっていた、「ティータイム」。色合いが好きです。

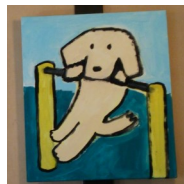
め：私は「てつぼう犬」！かわいい！（断言！）

聞き手のはるかも行きましたが、本当に素敵な個展でした。でみカフェさんの空間で作品に触れたことで、温かさや優しさに包まれるのを感じ、とても心地良かったです。これは生で体感して頂きたかった！話し手の皆さんからは、「いつかは自分も、でみカフェでイベントをやりたいなあ」というお話もちらほらと。これから、すぺいろうの皆さんがどんなことをしてくださるのか…お楽しみに♪

①



②



①：「ティータイム」

②：「てつぼう犬」

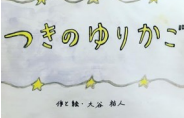
③：「さくら」

④：紙芝居「つきのゆりかご」

③



④



「つきのゆりかご」は、大谷さんが、2008年に手づくり紙芝居コンクール（紙芝居文化推進協議会主催）にて大賞（加太こうじ賞）及び観客賞を受賞された、作品です。